※神戸新聞社の許可を得て掲載しています

マ中

戸

棄斤

開 (分刊) 第43427号

2019年(平成31年)1月7日

月曜日

2019年(平成31年)

月曜日



面になっているだろうこと、

その

導・大国中心の現在とは違った局



最近、同僚と、未来の「火星史

在物も存在しない

を見るのか」など。 タストロフと時間」

人は火山に何

https://www.kobe-np.co.jp

購読のお申し込み 0120 • 16 • 8349

〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社

それほど当然でもなく、 現論)の立場に立つと、時間は存 れない。一方、未来を書くことは であり、歴史家の存在も不審視さ くことは、現在は当たり前のよう 在しない。現在の存在物は存在し 響きがある。だが、形而上学の 家」というとなんとなく胡散臭い く初めての体験だった。歴史を書 ノレゼンティズム(現在主義、 これは、歴史家として未来を書 過去の存在物も、 未来の存 未来史

火星史/ 未来史

まな先端技術の登場で、人々の関

工知能)やゲノム編集などさまざ 近代が終わったと言われ、AI(人

覚になっているだろうこと、一

八にとっての海外旅行くらいの感

宇宙旅行は高度成長期の日本

もつかないことなど興味深い論点 所有の問題がどうなるのかは予想 移住先の火星での社会関係や土地

代わって、未来を書く学、

りに向かい始めている。歴史学に 心は未来を含めた新たな時間の語

史学」という学問が現れる日も、

遠くないかもしれない。

がいくつも出てきた。

匡宏

らあるが、歴史学が今日のように

古代エジプトやバビロニア時代か

寺田

この100年ほどのことである。

時間感覚は流動している。いま、

組織化したのは、近代、とりわけ

国家主

国など新たな主体が現れ、

宇宙進出は、ベンチャーや新興

探ったものだ。

専門家へのインタビューや文献調 先端技術をめぐる考察の1回で、 のニュースレターで連載している を書いた。総合地球環境学研究所

とも、未来を書くことも推論であ

未来は同じである。過去を書くこ

存在しないという点では歴史と

り、その確からしさは、それを検

ているとも言える。歴史叙述は 証する学問共同体の厚さにかかっ

食をもとに、2070年、

火星に

、類が住み始めている頃の状況を

係などを研究する。主な著書に を経て現職。環境と歴史・記憶の関 ルリン)などの研究員や客員研究員 ノランク科学史研究所 学博物館、 民俗博物館、

(ドイツ・ベ マックス・ 国立民族

神戸市出身。 学研究所客員准教授。 国立歴史

てらだ・まさひろ 総合地球環境